

関魂

1 学年進路通信 3号
2024年 6月 28日

6月。旭陵祭に始まり、旭陵文化講演会や進路講演会の開催。部活動では、高校総体や高校総文が行われたり、夏の野球大会に向けて応援団が結成されたり、また、次の大きな学校行事である9月の体育大会に向けた地区別集會が開かれたり・・・と、盛りだくさんの一ヶ月が過ぎようとしています。そして、29日からはよいよ「期末考査」が始まります。中間考査と比べると、教科数も増え、期間も長くなります。学習の計画を立て、取り組み、結果をふり返って、自分の計画の立て方や勉強の仕方を改善する。考査は自分の学習の仕方や調整の仕方を学ぶ大切な機会です。「見通しを立て、実行し、ふり返り、改善する」という「PDCA サイクル」は仕事をする上でよく言われることですが、考査を通して、工夫して学ぶ力、自己調整力を鍛え、より「自律した学習者」となっていきましょう。

学習方略 (learning strategy)

教育心理学では、学習する際のさまざまな工夫を「学習方略」と呼びます。この学習方略について書かれている本の一部を紹介します。

	方略の名前	特徴	具体例
認知的方略	反復方略	単純に繰り返す	覚えるまで何度も書く 何回も口に出して言う 繰り返し問題を解く
	精緻化方略	既存知識と結びつける	根拠(なぜ)を押さえる 自分の言葉で言い換える イメージを活用する
	体制化方略	整理する	似た情報をまとめる 対比的な情報をまとめる 図や表で情報を整理する
メタ認知的方略	モニタリング	自分の学習をチェックする	自分で自分に質問をする どこまで理解できているか チェックする
	プランニング	計画を立てる	勉強の計画を立てる 勉強の目標を設定する
	コントロール	自分の学習を調整する	読む速さを調節する 重要なところに注意を向ける 自分のやる気を調整する

中学生、高校生、
大学生に向けて
書かれています



図表 2-1 勉強での工夫 (学習方略) の種類

(引用 篠ヶ谷圭太, 『使える! 予習と復習の勉強法—自主学習の心理学』, 筑摩書房, 2024, 37p)

図表 2-1 にある学習方略の中で、何かを覚える時に、どのような処理をして頭の中に取り込んでいくか、何かを読んで理解するときどのような処理をするか、といった情報処理に関する工夫を、「認知的方略」と呼びます。英単語を覚える時の認知的方略に焦点を当てた研究では、工夫なく単に繰り返す「反復方略」(浅い処理の方略)とテストの成績には関係がみられないことが明らかになっています。ただし、これは「繰り返し」を否定しているわけではありません。同じものを何度も集中して繰り返すのではなく、反復する場合は、間隔を置き、「忘れかけているタイミング」で繰り返す方が記憶の復活度合いが高くなります。

一方、成績との関係が認められるものが「精緻化方略」(深い処理の方略)です。これは、「自分の頭の中にある知識を使って処理をする」というものです。情報を自分なりにかみ砕

き、意識的に自分の知っていることとつなげる「精緻化」を積極的に行う工夫のことです。「なぜそうなるの?」「そもそも〇〇ってどういうこと?」(後述する田村先生の大学での学びもこれですね)、というように普段の学習から「なぜ」や「そもそも」を意識し、情報に自分なりに意味を持たせるようにすると、より豊かな学びになり、「使える知識」を手に入れられるはずで

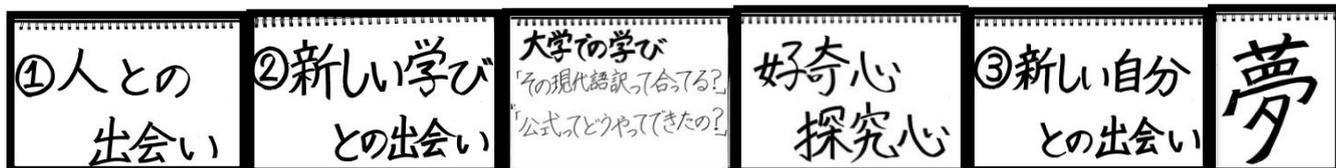
す。もう一つ「体制化方略」(深い処理の方略)、これは、いわゆる知識の整理整頓。共通点ごとにグループ化したり、対比できるものや、似ているけれど違うものをグループ化したりしていくと、紛らわしい情報をすっきりとまとめることができ、学習効果が期待できます。

3つの「認知的方略」。きっとどの方略も、これまで皆さんが実践してきたものだと思いますし、その効果は実感として分かっているはずだと思います。この本は、その実感としてあるものをさまざまな心理学の研究をもとに「精緻化」、「体制化」してくれています。「メタ認知的方略」については・・・、またの機会に紹介したいと思いますが、この本は「工夫して学ぶ力」を鍛えるための参考になるはずで

先輩に聴く!

6月3日から2週間、西高の卒業生である4名の教育実習が行われました。1年生は2組に工藤琉楓先生(奈良教育大学伝統文化教育専攻)、3組に田村千夏先生(山口大学人文学部)を迎え、学習活動や研究授業が行われました。3組の副総務委員(総合)の2人が田村先生にインタビューをしてくれましたので、そこで聴いたことと、3年生向けに田村先生が話をしてくれた内容をまとめて紹介します。字はスケッチブックに書いて下さったものです。

❖大学での3つの出会いを軸に、教員をめざしたきっかけなどを話して下さいました❖



生まれたり、生活したりしてきた場所が違っても、同じことを学びたくて同じ場所に集まって出会った友人と語り合えるってとても楽しい。先生方からも、これまで知らなかったことをたくさん教えていただいている。高校までは、古文だと現代文訳と自分の訳が合っているかを見比べたり、公式を活用しながら解いていったりすることが多かったが、大学では、その訳し方が本当にあっているのか、その公式はどうやってできたのか、というように、学びの中で目を向ける場所が変わった。『源氏物語』を学びたくて大学に行ったが、大学に入ってから「好き」とか「知りたい」とか「もっと深く学んでみたい」と思うことがどんどん増えていった。結局今は室町時代の御伽草子の中でも七夕に関わる作品を研究している。皆さんも今それぞれ学びたいことがあると思う。中には特別学びたいものが見つからない人もいるかもしれない。学びたいことが変わることは当然だし、むしろこだわりすぎずに、好奇心や探究心を大切に、新しい学びと出会ってほしい。

大学3年生の時に、ボランティアで外国にルーツを持つ子どもたちに日本語を教えたことがきっかけで、誰かが成長するのを応援するのってこんなにうれしいことなのだった。この時、教員になりたいという夢を見つけた。大学では自分の糧となる出会いがたくさんある。皆さんにもたくさんの出会いがあふれていると思う。出会いや縁を大切にしたいし、出会いのチャンスを掴み取ってほしい。

(文責 伊藤)